

令和6年度 第3回学校運営協議会 報告

1 日時

令和6年10月11日（金）午前8時30分から10時30分まで

2 会場

浜松東高校第一応接室、グラウンド

3 出席者

(1) 委員

清水猶（浜松市民生委員児童委員協議会旧東区顧問）

山下智之（浜松市内協働センター講座講師）

高木邦子（静岡文化芸術大学教授）

高林宏（スヤマビルドサービス(株)代表取締役社長）

松島民枝（静岡県立浜松東高等学校同窓会会長）

和田安彦（静岡県立浜松東高等学校後援会会長）

(2) 学校関係

丹生敬人(校長)、坪井保人(副校長)、近藤好正(教頭)、神谷兼司(事務長)

4 次第

(1) 第2回学校運営協議会報告

(2) 体育大会開会式・競技見学

(3) 校長挨拶（学校の現状説明等）

(4) 意見交換

5 意見交換の内容

- (1) 生徒の動きが機敏になっている。校長の言葉「バカになれ」を使って選手宣誓をするなど、浸透している。
- (2) 毎回楽しみにしている。校長講話は正に人間教育。生徒は一生懸命競技に取り組み、応援も素晴らしい。ペットボトルの処理についての説明に代表されるように、先生方の指導の方法も適切。
- (3) 仲間に対する応援や走ることが遅い子への声援も素晴らしい。クラス T シャツを忘れてきた生徒が見当たらないほど、一体感がよかった。「ルールを守らせる」ではなく、「ルールの必要性を説いている」ところがよりレベルが高いところへ向かっている感じがする。選手宣誓の爽快さや体操の一体感が印象的。
- (4) 大変活動的で、生徒のスピード感や力強さには感心させられるし、うらやましい。ごみの処理について、ペットボトルに名前を書くという指導をしているが、なかなか難しいのでは。誰かが違う名前を書いたりしないだろうか。とても大切な取組であるが、大事なのは、校長の言う、「投げたらアカン、ゴミと勉強」。生徒には、ごみが落ちていたら拾うようになってほしい。

- (5) 学校全体が積極的になってきている。ビジネス計算部をはじめとして、商業部活動の活躍が大変うれしい。校長からの話は毎回勉強になり、刺激となる。今回いただいた新聞の切り抜きなどのペーパーはありがたかった。感謝。
- (6) 予行ができず、例年とは違った形の体育大会であったが、スムーズにできていた。生徒の行動も素晴らしかった。大きな声で楽しんでいる姿が印象的であった。
- (7) PTA 未加入の理由は、役員をやりたくない点が一番ではないか。生徒のための組織であることを伝えていく必要がある。
- (8) 地域の活動が衰退しており、地域とのつながりが希薄になっている現状から、PTAに加入する意義を見出せないのではないかと感じる。一方、学校側は加入して当然と考えており、双方の認識の違いが大きいのではないかと感じる。地域と学校の協力体制をより強固にしていくことがPTA加入問題を解決することにつながっているのではないかと。